

手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告Ⅹ —ヨシ原、水田、畑地、斜面林(1996)—

斉藤安行*¹・太田紀子*^{1,2}

キーワード：鳥相、個体数調査、ヨシ原、水田、畑地、雑木林、手賀沼、千葉県

はじめに

手賀沼は千葉県北部に位置する湖沼で、古くから水禽類の渡来地として知られている(黒田1985)。我孫子市鳥の博物館と山階鳥類研究所は、手賀沼とその周辺の鳥類の生息状況を把握するため、共同で調査を実施している。調査では、調査地周辺の環境を①水面、②ヨシ原、③水田・畑地、④斜面林に区分し、各環境区分ごとにセンサスを行っている(斉藤ほか 1992a,b, 1993, 1994, 1995, 1996 平岡ほか 1994, 1995)。

本報文では、ヨシ原、水田・畑地、斜面林の三つの環境区分におけるセンサス調査について、前報(斉藤ほか 1996)にひきつづき、1996年の年1月から12月までの結果を報告する。

なお、調査にあたって、敷地内の立ち入りを快く許可して下さった株式会社日立総合経営研修所および同施設の関係者の方々に深く感謝いたします。

調査地と方法

手賀沼は北部と南部二つの沼からなり、それぞれ本手賀沼、南部手賀沼と呼ばれているが、調査は本手賀沼周辺(以下「手賀沼」と呼ぶ)で行った。

手賀沼は、開放水面の面積が約360haの水域で、周囲は堤防で囲まれている。水面と堤防の間には、ヨシ、マコモ、ヒメガマなどの抽水植物群落が生育し、いわゆるヨシ原となっている。堤防の周囲には水田・畑地が広がり、その背後は高度差10mほどの斜面で、アカマツと常緑広

葉樹の二次林でおおわれている。これらの環境を①ヨシ原、②水田・畑地、③斜面林に分け、各環境区分の中にそれぞれセンサスルートを設定し、各ルートにつき月1回の割合で調査を行った(図1、付表)。

調査者は、センサスルートに沿って歩きながら、観察範囲内に出現した鳥類の種名と個体数を記録した。観察には、双眼鏡(8倍)と地上望遠鏡(30倍)を用いた。調査日時、天候は付表に示したとおりである。

各調査地の概況、センサスルートの詳細については、我孫子市鳥の博物館調査研究報告第2巻(斉藤他 1993)に記したとおりである。なお、各調査地のセンサス調査範囲の面積は、ヨシ原が14ha、水田・畑地が44ha、斜面林が6haである。

調査結果

1 ヨシ原

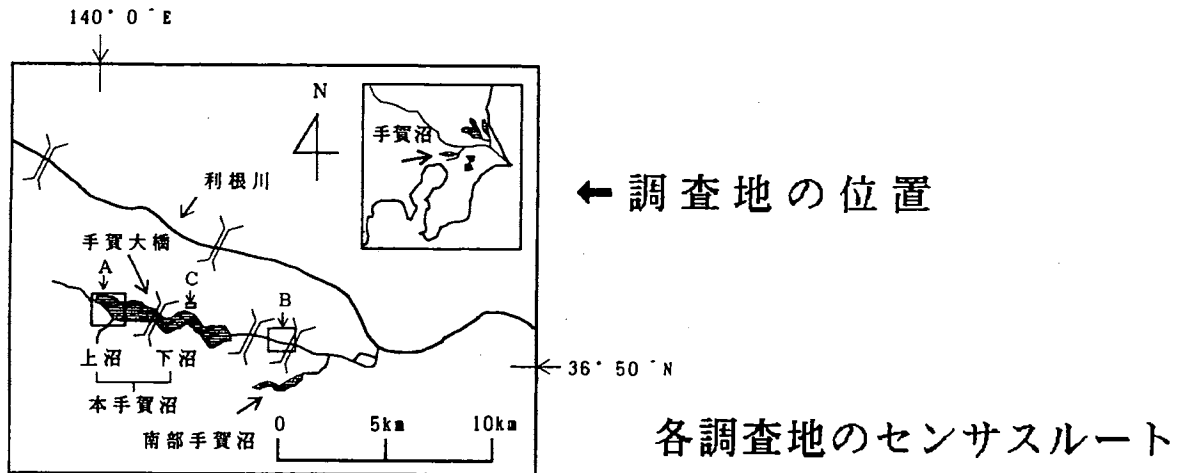
ヨシ原では、7目16科29種の鳥類が出現した(表1)。

月別の出現種数は、最大13種(1、11月)、最少3種(10月)であった(図2)。月別の出現個体数は、最大78羽(1月)、最少19羽(4月)であった(図3)。

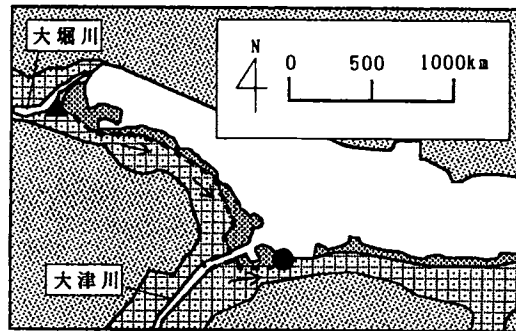
年間の累積個体数を比べると、多い順にオオジュリン(120羽)、スズメ(81羽)、オオヨシキリ(77羽)、ホオジロ(42羽)、ツバメ(23羽)、キジバト(17羽)、カワラヒワ(16羽)、バン(15羽)、オオバン(14羽)、カルガモ(11羽)と続

*¹ 〒270-1145 千葉県我孫子市高野山234-3 我孫子市鳥の博物館

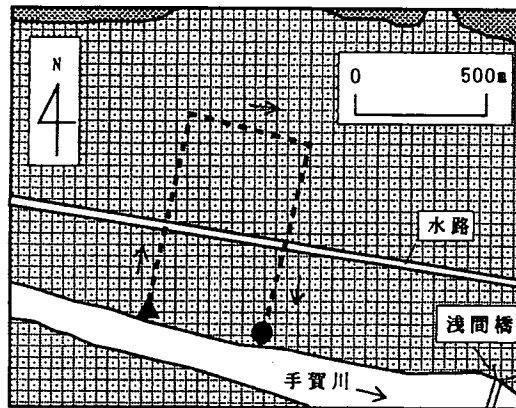
*² 現所属：〒950-2102 新潟市五十嵐二の町8050 新潟大学大学院自然化学研究科



A: ヨシ原



B: 水田・畑地



C: 斜面林

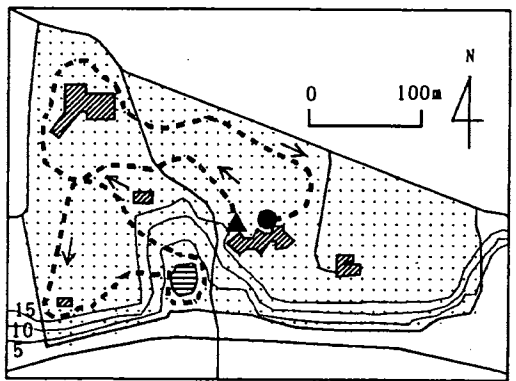


図1 調査地とセンサスルート

く(表2)。

また、春(3, 4, 5月)、夏(6, 7, 8月)、秋(9, 10, 11月)、冬(1, 2, 12月)の季節別に個体数の優占割合上位5種を比べると(図4)、春期はオオヨシキリ、オオジュリン、ツバメ、ホオジロ、バン、夏期はオオヨシキリ、ツバメ、オオバン、カルガモ、キジバト、秋期はスズメ、オオジュリン、ホオジロ、カワラヒワ、バン、冬期はオオジュリン、ホオジロ、スズメ、ホオジロ科の一種、キジバトであった。春期と夏期には、オオヨシキリが、秋期にはスズメが、冬期にはオオジュリンが最優占種となり、それぞれ各季節の累積個体数のほぼ4割を占めた。

1. 2 水田・畑地

水田・畑地では、7目18科33種の鳥類が出現した(表3)。

月別の出現種数は、最大16種(5月)、最少3種(10月)であった(図5)。月別の出現個体数は、最大293羽(7月)、最少30羽(10月)であった(図6)。

年間の累積個体数を比べると、多い順に、ヒバリ(466羽)、ムクドリ(264羽)、カワラヒワ(132羽)、ツグミ(91羽)、スズメ(67羽)、ツバメ(51羽)、タヒバリ(34羽)、ハシボソガラス(33羽)、カルガモ(31羽)、タゲリ(31羽)と続く(表4)。

また、春(3, 4, 5月)、夏(6, 7, 8月)、秋(9, 10, 11月)、冬(1, 2, 12月)の季節別に個体数の優占割合上位5種を比べると(図7)、春期はヒバリ、ツグミ、カワラヒワ、ムクドリ、ムナグロ、夏期はムクドリ、ヒバリ、ツバメ、カルガモ、セッカ、秋期はヒバリ、スズメ、カワラヒワ、ショウドウツバメ、キジバト、冬期はヒバリ、カワラヒワ、ツグミ、タゲリ、ムクドリであった。全季節を通じて、ヒバリは上位5種に入り、ムクドリが最優占種となった夏期を除けば、他の時期は全て最優占種であった。

1. 3 斜面林

斜面林では、5目16科30種の鳥類が出現した(表5)。

月別の出現種数は、最大18種(12月)、最少7種(9月)であった(図8)。月別の出現個体数は、最大90羽(4月)、最少28羽(9月)であった(図9)。

年間の累積個体数を比べると、多い順に、ヒヨドリ(216羽)、メジロ(97羽)、スズメ(77羽)、カワラヒワ(57羽)、ムクドリ(56羽)、キジバト(53羽)、アオジ(53羽)、シジュウカラ(40羽)、コゲラ(20羽)、ハシブトガラス(17羽)と続く(表6)。

また、春(3, 4, 5月)、夏(6, 7, 8月)、秋(9, 10, 11月)、冬(1, 2, 12月)の季節別に個体数の優占割合上位5種を比べると(図10)、春期はヒヨドリ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、アオジ、夏期はムクドリ、ヒヨドリ、スズメ、メジロ、キジバト、秋期はヒヨドリ、メジロ、キジバト、シジュウカラ、アオジ、冬期はヒヨドリ、アオジ、カワラヒワ、メジロ、シジュウカラであった。全季節を通じて、ヒヨドリは上位5種に入り、ムクドリが最も多かった夏期以外は最優占種であった。

表1 ヨシ原のセンサス結果 (1996年)

種名	月/日												計
	01/19	02/16	03/13	04/19	05/15	06/18	07/17	08/23	09/11	10/17	11/14	12/17	
ヨシコイ					1			2	1				4
チュウサキ								1					1
コサキ								1	1				2
加カモ				4		1		6					11
コカモ				4									4
キシ	1			1									2
ハシ				2	4			3	5		1		15
オハシ				2			1	11					14
キシハシ	4	2					4	3	1		1	2	17
カウセミ											1		1
ヒハシ	1		1		1								3
ツハメ				2	5	4	7	5					23
ハクセキレイ								2	1		2	1	6
セウロセキレイ	2												2
死ハシ											2		2
ヒヨトリ	1											2	3
モス										1	1	1	3
シヨウヒタキ												2	2
ツグミ	1	3	1	2							1	3	11
ウタイス	2										3		5
オヨシサリ					41	18	17	1					77
セッカ					3			1					4
オシロ	15	1	7								10	9	42
カンタカ	4												4
アシ	4		2								5		11
オシロ	33	7	31								14	35	120
カワセウ	1				1	3				2	7	2	16
ススメ	6	10		2		3	1	1	24	17	12	5	81
ムクトリ		1	1									2	4
オシロ科sp.			10										10
ツグミ亜科sp.	3												3
クハ科sp.								2					2
個体数合計	78	34	43	19	56	29	30	37	35	20	60	64	505
出現種数	13	6	6	8	7	5	5	12	6	3	13	11	29

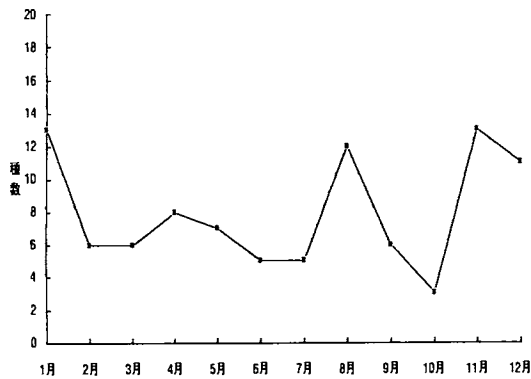


図2 種数の月変化 (ヨシ原)

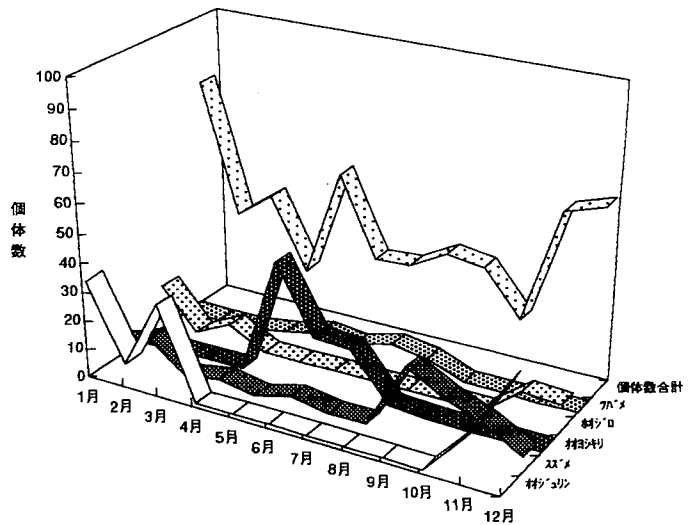
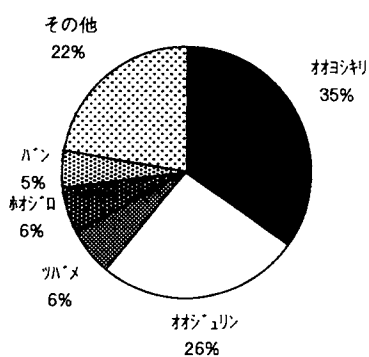


図3 個体数の月変化 (ヨシ原)

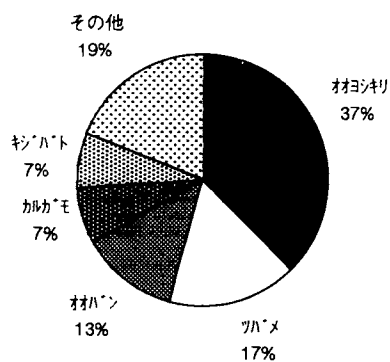
表2 種別年間累積個体数 (ヨシ原)

順位	種名	個体数	順位	種名	個体数
1	オシジュリン	120	21	ヒバリ	3
2	スズメ	81	22	ヒヨドリ	3
3	オヨシキリ	77	23	モズ	3
4	オシロ	42	24	ツグミ亜科sp	3
5	ツハメ	23	25	コサギ	2
6	キンハト	17	26	キン	2
7	カラヒク	16	27	セグロセキレイ	2
8	ハシ	15	28	死ハシ	2
9	オハシ	14	29	シヨウビタキ	2
10	カルカモ	11	30	クイ科sp.	2
11	ツグミ	11	31	チュウキ	1
12	アオシ	11	32	カケミ	1
13	オシロ科sp.	10		計	505
14	ハクセキレイ	6			
15	ウグイス	5			
16	ヨシコイ	4			
17	コカモ	4			
18	セッカ	4			
19	ガシタカ	4			
20	ムクドリ	4			

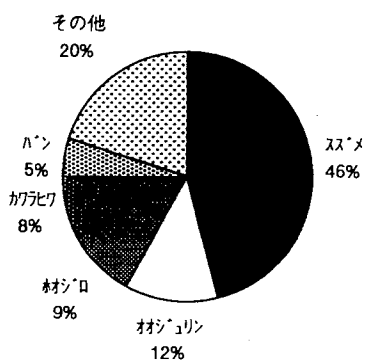
春期 (3,4,5月) の累計 (n=118)



夏期 (6,7,8月) の累計 (n=96)



秋期 (9,10,11月) の累計 (n=115)



冬期 (12,1,2月) の累計 (n=176)

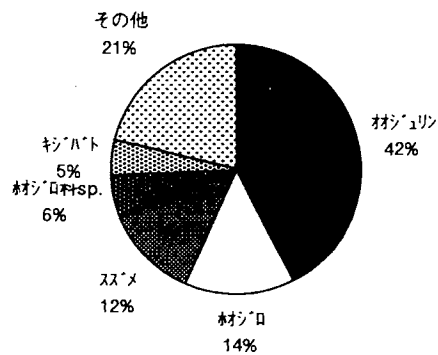


図4 各季節の優占種 (ヨシ原)

表3 水田・畑地のセンサス結果 (1996年)

種名	月/日												計
	01/19	02/16	03/13	04/19	05/15	06/18	07/14	08/23	09/11	10/17	11/14	12/17	
カイワリ	2												2
アマキ					1		13	5					19
ダイキ				1	1	1		3					6
チュウキ					6	3	3		2	2			16
コキ					1		4					2	7
カカモ				10		7	14						31
ノリ	1		1									1	3
ハイロチュウ											1		1
チョウナンホウ			1									1	2
コト							1						1
ムク				12	5								17
タケ	5											26	31
キウシヨシ					10								10
キアシ					5								5
チュウシヤクシ				1	1								2
キンハト		1		5	2			2	2		7		19
ヒハ	87	149	41	9	7	36	11	7	20	27	26	46	466
ショウトウハメ									25				25
ツハメ							44	2	5				51
ハケキレ			1		1				1		2	2	7
ヒハ	2		1	12							7	12	34
モ												1	1
ツクミ	14	5	20	14							1	37	91
オヨシ					2	1							3
セツカ					3	1	6	12	8				30
ホアカ	2												2
カシタカ	5											5	10
オジュリン	14		4									4	22
カワレ	35		4	22		4				1	31	35	132
スメ	5			2	1		2	9	10		33	5	67
ムク	13		8	6	4	30	192		3		2	6	264
ハシツカラス	8		3	6	5	2	3	4			1	1	33
ハシツカラス	1												1
個体数合計	194	155	84	100	55	85	293	44	76	30	111	184	1411
出現種数	14	3	10	12	16	9	11	8	9	3	10	15	33

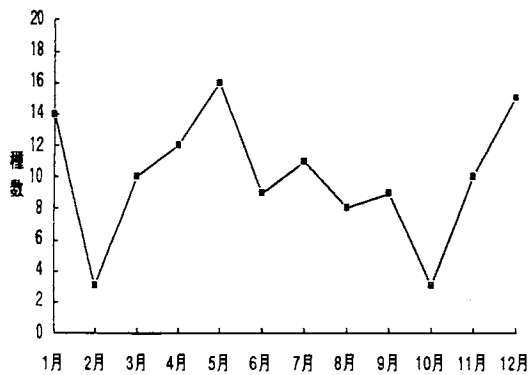


図5 種数の月変化 (水田・畑地)

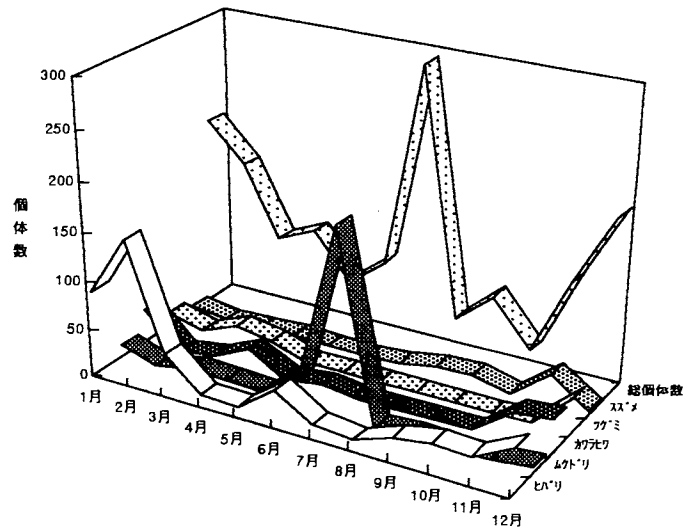
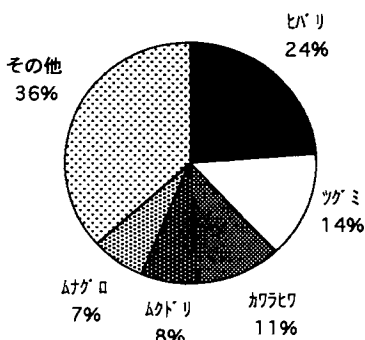


図6 個体数の月変化 (水田・畑地)

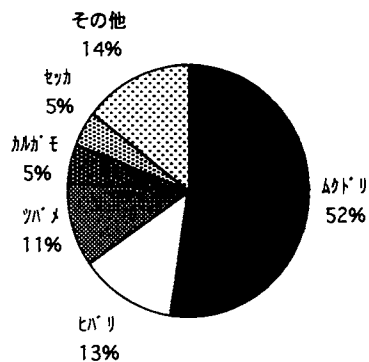
表4 種別年間累積個体数 (水田・畑地)

順位	種名	個体数	順位	種名	個体数
1	ヒバリ	466	21	ハクセキレイ	7
2	ムクドリ	264	22	タビサキ	6
3	カラヒワ	132	23	キアシキ	5
4	ツグミ	91	24	ノスリ	3
5	スズメ	67	25	オヨソキリ	3
6	ツバメ	51	26	カイツブリ	2
7	クハシ	34	27	チョウゲンボウ	2
8	ハシホトカリ	33	28	チュウシャクシ	2
9	カルカモ	31	29	ホオアカ	2
10	タケリ	31	30	ハイロチュウヒ	1
11	セッカ	30	31	コチドリ	1
12	ショウトウツバメ	25	32	モス	1
13	オジュリン	22	33	ハシホトカリ	1
14	アマサキ	19		計	1411
15	キンハト	19			
16	ムナグロ	17			
17	チュウサキ	16			
18	キョウジョシキ	10			
19	カシラダカ	10			
20	コサキ	7			

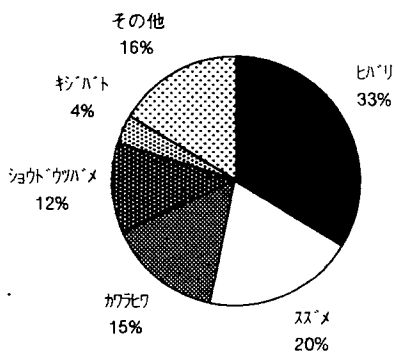
春期 (3,4,5月) の累計 (n=239)



夏期 (6,7,8月) の累計 (n=422)



秋期 (9,10,11月) の累計 (n=217)



冬期 (12,1,2月) の累計 (n=533)

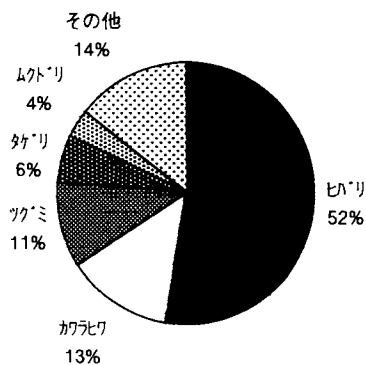


図7 各季節の優占種 (水田・畑地)

表5 斜面林のセンサス結果 (1996年)

種名	月/日												計
	01/19	02/16	03/13	04/19	05/15	06/18	07/14	08/23	09/11	10/17	11/14	12/17	
カマモ	1												1
コシユカイ	1				1						1		3
キノ	1	1		3	3	1	1						10
キノハト	6	3	4	3	7	2	4	6	6	7	2	3	53
コガラ	2	1	3	3		2	1	2		1	2	3	20
ツハメ				3				5	2				10
ハクセキレイ			1	1		1		2	1				6
ヒンスイ	4	3										3	10
ヒヨドリ	14	16	11	30	9	13	21	9	8	33	33	19	216
モス		1								2			3
脚ビク												2	2
ジョウビク												1	1
アカハラ		1	1										2
シロハラ		1	1						1	3			6
ツクミ		3	1	2						1	3		10
ウグイス	2									1	1	3	7
ヒカラ											3	1	4
ヤマガラ										2		6	8
シシユウカワ	6	2	4	1		3	1	6	2	6	4	5	40
メジロ	4		16	22	2	1	10	4	5	9	11	13	97
ホシロ	1				2		1	3				1	8
アオジ	14	10	8	9							6	6	53
カラヒク	1	13	19	5	7	2	1	1		4		4	57
シメ											1		1
スズメ		1	6	5	19	11	22	6		5		2	77
ムクドリ			1		5	6	7	35				2	56
カス		2	3	2						1			8
オカ			3	1			6	1					11
ハシホソガラス		1	1		2								4
ハシブトガラス	1	1	1			2	3	2	4	1	1	1	17
(ツクミ亜科sp.)	2												2
個体数合計	60	60	84	90	57	44	78	82	28	73	69	78	803
出現種数	14	16	17	14	10	11	12	13	7	13	13	18	30

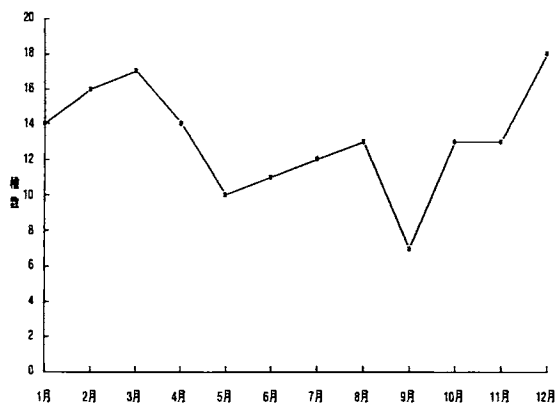


図8 種数の月変化 (斜面林)

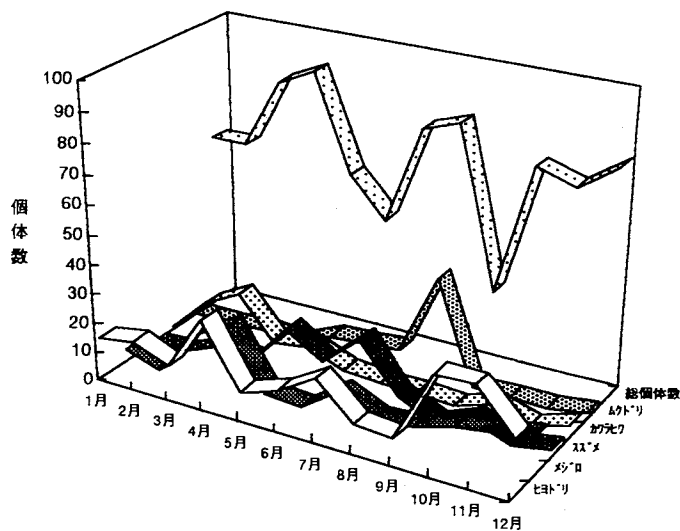
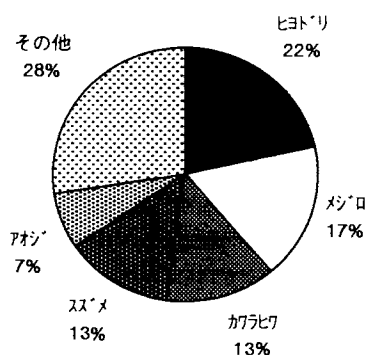


図9 個体数の月変化 (斜面林)

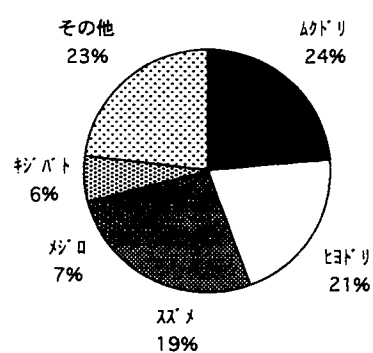
表6 種別年間累積個体数 (斜面林)

順位	種名	個体数	順位	種名	個体数
1	ヒヨドリ	216	21	シハラ	6
2	メジロ	97	22	ヒガラ	4
3	スズメ	77	23	ハシホソガラ	4
4	カラビク	57	24	ジョウライ	3
5	ムクドリ	56	25	モス	3
6	キジバト	53	26	ルビキ	2
7	アオジ	53	27	アカハラ	2
8	ジョウカ	40	28	ツグミ亜科sp.	2
9	コガラ	20	29	コガモ	1
10	ハシホソガラ	17	30	ジョウビキ	1
11	オカ	11	31	シメ	1
12	キジ	10		計	803
13	ツハメ	10			
14	ヒンズイ	10			
15	ツグミ	10			
16	ヤマガラ	8			
17	ホシロ	8			
18	カス	8			
19	ウグイス	7			
20	ハクセキレイ	6			

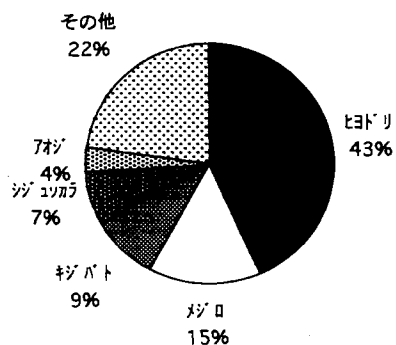
春期 (3,4,5月) の累計 (n=231)



夏期 (6,7,8月) の累計 (n=204)



秋期 (9,10,11月) の累計 (n=170)



冬期 (12,1,2月) の累計 (n=198)

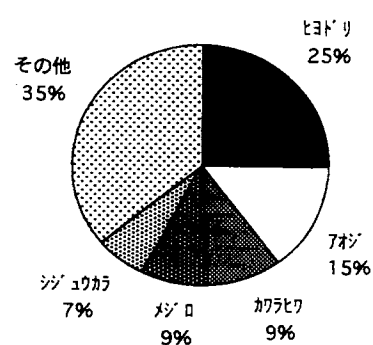


図10 各季節の優占種 (斜面林)

引用文献

- 黒田長久. 1985. 水鳥の里, 手賀沼-我孫子移転にあたって-. 山階鳥類研究所報告 17(72) : 3-8.
- 斉藤安行・百瀬邦和・平岡考・鶴見みや古・大山紀子. 1992a. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告 I -ヨシ原、水田・畑地、斜面林(1988-1991) -. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 1 : 43-59.
- 斉藤安行・平岡考・百瀬邦和・鶴見みや古・大山紀子. 1992b. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告 II -水面(1988-1990) -. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 1 : 61-73.
- 斉藤安行・大山紀子. 1993. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告 III -ヨシ原、水田・畑地、斜面林(1992) -. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 2 : 25-34.
- 斉藤安行・大山紀子. 1994. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告 IV -ヨシ原、水田・畑地、斜面林(1993) -. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 3 : 71-79.
- 斉藤安行・大山紀子. 1995. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告 VI -ヨシ原、水田・畑地、斜面林(1994) -. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 4 : 43-53.
- 斉藤安行・大山紀子. 1996. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス結果報告 VIII -ヨシ原、水田・畑地、斜面林(1995) -. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 5 : 175-185.
- 平岡考・斉藤安行・百瀬邦和・鶴見みや古・大山紀子. 1994. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス調査 V -水面(1991-1993) -. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 3 : 81-89.
- 平岡考・大山紀子・斉藤安行・百瀬邦和・鶴見みや古. 1995. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス調査 VII -水面(1994) -. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 4 : 55-60.
- 平岡考・鶴見みや古・大山紀子・斉藤安行・百瀬邦和. 1996. 手賀沼とその周辺の鳥類センサス調査 IX -水面(1995) -. 我孫子市鳥の博物館調査研究報告 5 : 187-192.

Bird census report for Tega Marsh and Surrounding Area X
 -1996 Reed bed, Farmland, Woodland-

Yasuyuki Saito, Noriko Ohyama

KEY WORDS : Avifauna, count survey, reedbeds, farmland, coppice forest, Tega marsh, Chiba prefecture

Abiko City Museum of Birds. Kohnoyama 234-3, Chiba, 270-1145, Japan

付表 調査日時と天候

調査日	天候	調査地									
		ヨシ原			斜面林			水田・畑			
月/日		開始	終了	調査者	開始	終了	調査者	開始	終了	調査者	
01/19	曇り	8:31	9:30	大山紀子	8:46	9:20	斉藤安行	A	9:42	10:26	斉藤安行
								B	10:12	10:26	大山紀子
02/16	みぞれ	8:27	9:06	大山紀子	8:45	9:25	斉藤安行		10:02	10:40	大山紀子
03/13	曇り	8:23	9:00	大山紀子	8:56	9:33	斉藤安行	A	9:36	10:10	斉藤安行
								B	9:56	10:10	大山紀子
04/19	曇り	8:31	9:05	大山紀子	8:53	9:43	斉藤安行	A	9:49	10:18	斉藤安行
								B	9:55	10:18	大山紀子
05/15	晴れ	8:26	9:46		8:50	9:35	斉藤安行	A	9:50	10:25	斉藤安行
								B	10:05	10:25	大山紀子
06/18	曇り	8:28	9:28	大山紀子	9:00	9:31	斉藤安行	A	9:47	10:16	斉藤安行
								B	10:06	10:16	大山紀子
07/17	晴れ	8:32	9:11	大山紀子	8:50	9:38	斉藤安行	A	9:40	10:12	斉藤安行
								B	9:55	10:12	大山紀子
08/23	晴れ	10:35	12:52	斉藤・大山	8:10	9:08	斉藤安行		8:22	8:56	大山紀子
09/11	曇り	8:33	9:24	大山紀子	8:33	9:24	斉藤安行		9:45	10:26	斉藤安行
10/17	曇り	8:30	9:08	大山紀子	8:50	9:42	斉藤安行		9:55	10:35	大山紀子
11/14	曇り	8:47	9:20	斉藤安行	8:40	10:19	斉藤安行		10:30	11:02	斉藤安行
12/17	晴れ	8:40	9:30	大山紀子	8:56	9:45	斉藤安行		10:52	11:23	斉藤安行

*水田・畑地は、センサス・ルートの内側から同時に調査したため、それぞれの調査区間をA,Bとした。